

君の名は (1953)

メディア 映画

ジャンル ロマン스 ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 127分

初公開日 1953/09/15

【解説】

大人気を博した菊田一夫によるラジオドラマを、柳井隆雄が脚色し大庭秀雄が監督した長編メロドラマ。三部作として製作されたうちの第一作に当たる。岸恵子の「真知子巻き」やガラス越しのキスシーンが話題となった。

後宮春樹と氏家真知子は、昭和二十年五月二十四日の夜、東京大空襲のもとで初めて出会った。出会いの場所は数寄屋橋。二人はもし命があったら半年後の今日、ここで再び会おうと約束する。春樹は「君の名は」と聞いたが、真知子は答えなかった。半年後には会えず、二人が再会したのは一年半後のこと。そのとき真知子はすでに結婚が決まっていた。佐渡島で新婚生活を送る真知子だったが、夫とも姑とも折り合いが悪く、ついに家を飛び出してしまう。

【クレジット】

監督 大庭秀雄

製作 山口松三郎

原作 菊田一夫

脚本 柳井隆雄

撮影 斎藤毅

美術 熊谷正雄

編集 杉原よ志

音楽 古関裕而

出演 佐田啓二

岸恵子

淡島千景

月丘夢路

川喜多雄二

小林トシ子

野添ひとみ

淡路恵子 Keiko Awaji

笠智衆

市川春代

望月優子

須賀不二夫

市川小太夫

伊沢一郎

三井弘次

北龍二

榎芙佐子
水上令子
本橋和子
小林十九二
阿里道子
井上正彦